

開一小だより

臨時号

令和4年3月9日発行
練馬区立開進第一小学校
校長 石神 徹

令和3年度 学校評価のまとめ

12月に児童・保護者・地域の方々・教職員による学校評価（自己評価）を行い、その結果を基に次年度の方針・取組をまとめましたのでご報告いたします。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

1. 保護者、地域、教職員による評価結果

	評価項目	保護者	地域	教職員
(1)	学力や学ぶ意欲を高める授業や取組が行われている。	2. 1 3	4. 0	3. 4 1
(2)	安心して生活を送ることができる学校である。	2. 7 8	4. 0	3. 3 5
(3)	授業以外の学校生活などで子供のがんばりが見られる。	2. 5 2	3. 6 6	
(4)	学校は安心・安全な施設・環境や給食が提供されている。	3. 1 8	3. 6 6	3. 3 5
(5)	算数習熟度別学習は、子供に適した内容・進度のため、子供が意欲的に取り組みやすい。	2. 5 8	4. 0	3. 5 8

2. 児童による評価結果

	評価項目	昨年度	今年度
(1)	学校は楽しいですか。	3. 4 4	3. 2 1
(2)	授業は、わかりやすいですか。	3. 4 4	3. 4 0
(3)	あいさつは進んでしますか。	3. 4 5	2. 9 9
(4)	「開一小のよい子の生活」を守っていますか。	3. 3 1	3. 1 5
(5)	自分から進んで読書をしていますか。	3. 3 4	2. 9 5
(6)	(3～6年生のみ回答) 算数の学習は、習熟度別で勉強しやすいですか。	3. 2 9	3. 3 2
(7)	家での学習時間はどれくらいですか	3. 0 6	2. 4 3

※ 表中の数値について

A：あてはまる、1時間以上（4点）

B：ややあてはまる1時間以内（3点）

C：あまりあてはまらない、30分以内（2点）

D：まったくあてはまらない、ほとんどしない（1点）

E：わからない（点なし）

として総合点を出し、総合点÷（総数－Eの数）を計算して平均値とした

※ 調査期間及び集計総数（回収率）

保護者アンケート	302枚（48.7%）	（前年度70%）
学校評議員アンケート	4枚（67%）	（前年度83%）
教職員アンケート	17枚（63%）	（前年度100%）
児童アンケート	529枚（85%）	（前年度99.2%）

<分析>

1. 保護者、地域、教職員による評価結果 について

- 地域の皆様には、いつも温かく本校の教育を見守っていただいている。
- 保護者の評価と教職員の評価との間の差が大きく、現状の捉え方に違いが生じている。
この差を埋めるべく、学校は保護者の声に耳を傾け、認識の差を埋めていく必要がある。
- 特に、「(1) 学力や学ぶ意欲を高める授業や取組が行われている」に関しては、認識の差が大きい（1.28ポイント）。教員は、さらなる授業改善を行い、授業力向上に努める必要がある。

2. 児童による評価結果 について

- 全体的にポイントが低下している。
- 「(3) あいさつは進んでしますか」では、0.46ポイント低下している。コロナ禍の生活が続き、大きな声を出したり発言したりする機会が激減する中、あいさつや返事の声が小さくなっていることは事実である。児童会を中心とした「あいさつ運動」も、ここ2年間はほとんど実施できていない。感染状況をよく把握しながら、実施できる時期に、可能な限り活動を充実させる。
- 「(5) 自分から進んで読書をしていますか」では、0.39ポイント低下している。感染予防の観点から、図書室の利用可能時間を割りふったことにより、図書室への滞在時間が制限されていることも影響していると考えられる。例年実施している、平和台図書館の団体貸し出し制度を活用した学級文庫の充実とともに、次年度は、図書室の書庫の中から各学級へ学級文庫として本を再利用し、児童が本を手取る機会を増やす。また、PTA活動マザーグースの方々のお力も借りながら、読み聞かせや朗読に親しむ機会も充実させる。
- 「(7) 家での学習時間はどれくらいですか」では、0.63ポイント低下している。毎日同じような「宿題」（例：漢字の学習、計算ドリル、音読）を出すだけでなく、自分の興味あることを深く調べたり、授業中に疑問に思ったことを解決したりすることを楽しむ「自学自習」を定着していく必要がある。好事例を参考に、自学ノート・自習ノートの使い方を指導できるよう、教員が指導力を高めていく必要がある。

3. アンケート方法の変更に関して

- 今年度より、地域の方以外は、児童用タブレットパソコンを使用した、データ配信型のアンケート方法を実施した。このことが、回収率の低下に大きく影響したものと考えられる。
配信したきりで、回答は回答者に任せるのではなく、随時声をかけ、回答の依頼を続けることが大切である。次年度は、今年度の反省をいかし、このことを実行し、回答率の向上を図る。

<学校関係者評価>

(1) 成果

- ・感染状況、感染対策が厳しい中、様々な工夫を行って日々の学校運営や学校行事の実施に取り組んでこられた1年間であった。
- ・音楽会における各学年の担任教員の指揮は、教員をより身近に感じられ非常によかった。

(2) 課題

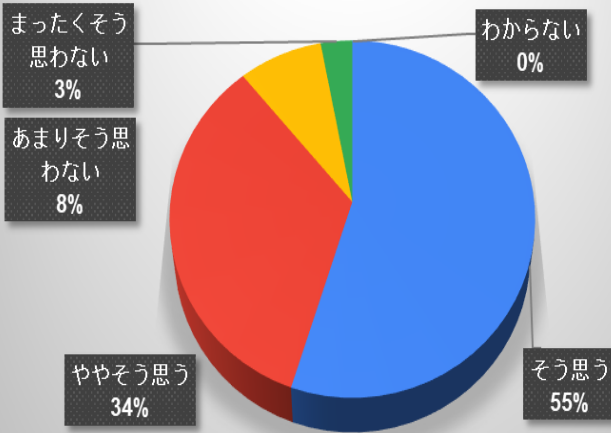
- ・感染対策に学級によって差が見られる。例えば換気一つを取り上げても、あまりドアがあまり開いていない（天窓の有無が教室によって一概には言えないが）学級もあれば、逆に開きすぎていて児童が風邪をひかないか心配な学級もあった。
- ・保護者が授業や教室の様子を観られる機会が少なかったことが、学校評価の結果にもつながっているのではないかと。

(3) 改善策

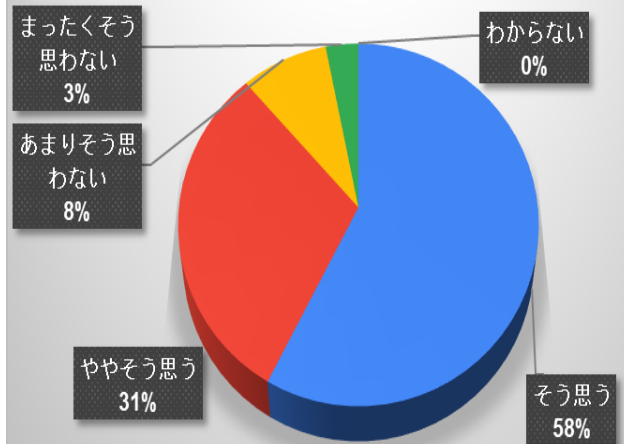
- ・前後対角線 20cm 開けることを基本としており、各教室の窓やドアに印のシールも付けてある。全学級がこの基本に則り換気を行うよう、徹底を図る。
- ・感染状況を鑑みながら可能な限り学校公開や保護者会を実施するとともに、個人面談の回数を増やし、学校や学校における児童の様子を保護者にお伝えする機会を充実させる。

<児童による評価結果（グラフ）>

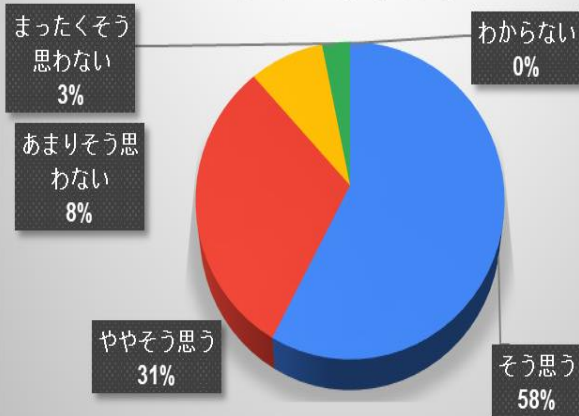
問1 学校は楽しいですか。



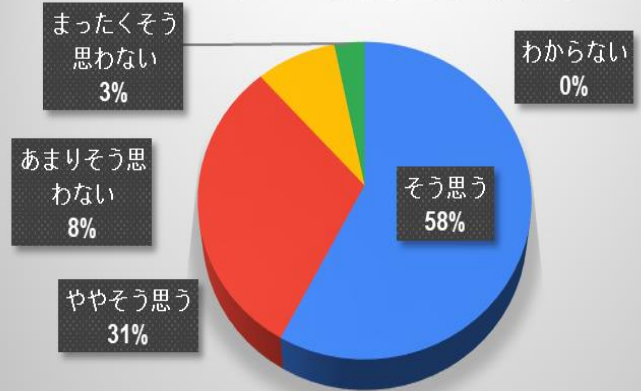
問2 授業はわかりやすいですか。



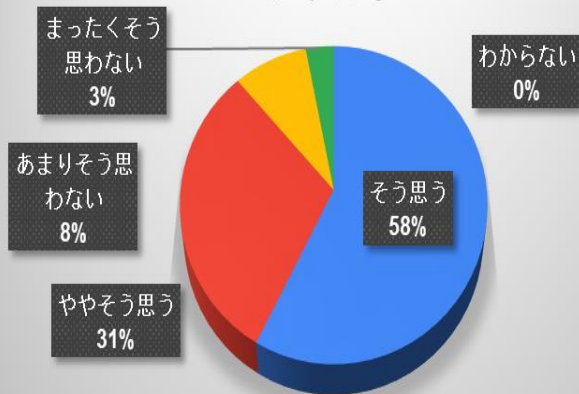
問3 あいさつをすすんでしていますか。



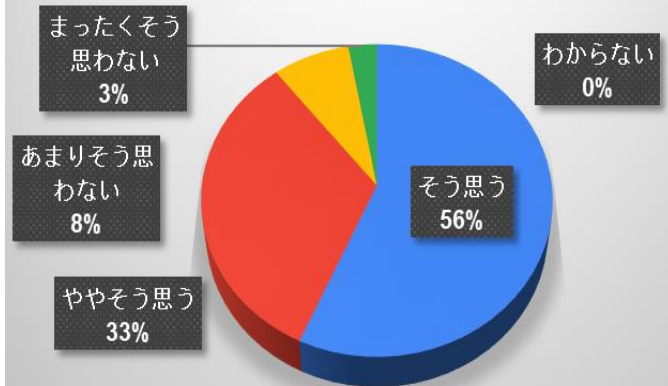
問4 「開一小のよい子の生活」を守って、生活していますか。



問5 自分から進んで読書をしていますか。



問6 算数の学習は、習熟度別で勉強しやすいですか。



<令和4年度の教育活動について>

感染対応下、この二年間進めてきた『新しい教育様式』の定着と充実に努めます。

具体的には、子どもと担任、子どもと専科教員のゆとりあるふれあいによる教育の手応えを求め、現行学習指導要領の趣旨徹底、教育内容の重点化・精選化、教員研究と重ねるGIGA推進、SDGSの着実な継続、通常学級及び特別支援教室（あおば教室）におけるユニバーサル・デザイン教育・特別支援教育の追究です。

教育の担い手が枯渇する状況にあり、教職員の働き方改革の視点からも慣例をしっかりと見直していきます。

来年度の動きとして、5点申し述べます。

1 140周年を迎える年度の意義

明治15年、開進小学校として開校以来、140周年を迎えます。11月19日（土）に式典を挙行します。この他、児童集会や記念誌、いわゆるホームカミングデイといった卒業生来校機会等関係行事も計画しています。この年に学ぶ意義を継続して考える一年にします。

2 朝活動の変更・充実

朝学習帯の短時間国語授業の安定と充実に努めるために、火・水・木は登校後、授業準備等に専念します。その分、校庭朝遊びは金曜日に厳選・限定し、時間を20分程度のワイド版にします。週末の朝は大いに遊びます。これに伴い、月曜日に学校慣れに代えて、全校朝会や児童集会を行います。

3 保護者面談の充実

令和3年度はデルタ株拡大時の午前授業・午後オンライン対応で面談中止を余儀なくされました。家庭と学校の連携は強く求められており、面談の重要性は増しています。今回の反省を踏まえ、来年度は二回設定します。第一回は5月（1年は全員、2年以上は希望制）、第二回は11～12月（全学年全員）です。なお、第二回の全員面談に伴い、二学期通知表の総合所見は面談に代えます。教科評定等は行います。

4 給食調理民間委託

給食調理が民間委託されます。既に区立中学校は全校委託になっており、小学校も来年度、本校を含め65校中56校が委託になります。引き続き、本校の最新型給食室にて安全でおいしい給食を出食します。

5 体育館冷暖房工事

区立学校で行われている標記工事の順番が回ってきました。工事は主に夏休み中です。今後、夏冬の体育館が過ごしやすく、活動しやすくなります。避難拠点施設としても充実します。